



Title	語文 第102輯 編集後記/奥付
Author(s)	
Citation	語文. 2014, 102
Version Type	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/70938">https://hdl.handle.net/11094/70938</a>
rights	
Note	

*The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

## 編集後記

百輯記念号という一里塚を越え、今号は新たな旅程への第一歩となりました。百五十輯、二百輯の発行されるとき、いつたい『語文』はどういう形態・内容になつてゐるのか、それどころかそもそも文学研究科、更には日本の大学がどうなつてゐるのか、皆目想像の付かない現今的情勢ではあります。私たちに出来るのはただ実直に研究の歩みを続けることだけです。今号掲載の「シンポジウム報告」は、そのための貴重な道しるべになることと思います。ヒボクラテスの言葉、「芸術は長し、人生は短し」(Artus longa, vita brevis)の通り、良い研究論文が載せられている限り、世の中がどう変わつても『語文』の命は続くに違いありません。

ところで、この言葉、本当は誤訳で、正しくは「医術修得の道のりは長く、人生は短い」という意味なのだそうです。これはこれまで、私たち研究の世界に生きる人間には深く響くものがあります。特に、年度初めの、新たな研究への希望と気力がもつとも漲つているべき時期に、院生がみな書類作成に忙殺されている現状を見て、つくづくこの言葉の重みを感じずにはいられませんでした。

些か暗いことを書きましたが、この節目の時、日本文学・国語学専修に斎藤理生先生を新たにお迎え出来たのは、この上なく嬉しいことです。卒業生である斎藤先生の朗らかなお人柄が、研究室の明度を何ルクスか上げてくださったように思われます。

(矢田  
勉)

## 語文 第百二輯

平成二十六年六月二十五日 印刷  
平成二十六年六月三十日 発行

編集者

大阪大学国語国文学会

〒560-8532 大阪府豊中市待兼山町一-十五

大阪大学大学院文学研究科  
日本文学・国語学研究室

代表 出原隆俊

振替口座〇〇九四〇一四一一四六四一  
電話 〇六一六八五〇一五一一一

印刷 亜細亜印刷株式会社